

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成25年 5月 27日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2011～2012

課題番号：23760610

研究課題名（和文） ファシズム期イタリアの公団住宅とO. N. D. 施設を中心とした地域生活圏の解明

研究課題名（英文） Regional living zone formed from the housings by the Istituto Case Popolari and the leisure architecture by the Opera Nazionale Dopolavoro in Fascist Italy

研究代表者

奥田 耕一郎 (OKUDA KOICHIRO)

早稲田大学・理工学術院・次席研究員（研究院講師）

研究者番号：50454103

研究成果の概要（和文）：1925年にイタリアで設立された労働者の余暇活動を管理・運営する組織である全国ドーボラヴォーロ事業団が行った建築関連の活動は、労働者住宅にかんする諸施策と余暇活動のための施設整備の2つに大別される。本研究では、1927年から1933年にかけてのみ取り組まれたものとしてその住宅関連施策の全容を明らかにするとともに、とりわけ重要な余暇施設であるパルマとヴェルチェッリの事例について、その建築的特徴を具体的に指摘した。また、事業団による建築関連の活動と、ファシズム体制による公団住宅整備を複合的に捉えながら、ファシズム期における都市の生活空間について分析を行った。

研究成果の概要（英文）：The Opera Nazionale Dopolavoro (OND), was founded in 1925 and organized after-work leisure for workers until the end of the Fascist era, carried out important architectural activities. These activities can be divided into two major activities, one was the intervention to worker's housings and the other was construction of the leisure architecture. In this study the whole picture of the OND's intervention to worker's housings and the architectural characteristics of the two important centers of leisure in Parma and Vercelli are clarified. In addition, it was analyzed regional living zone that was formed by the centers of leisure and the housings provided by the Istituto Case Popolari.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学 建築史・意匠

キーワード：建築史・意匠 近代建築史 ドーボラヴォーロ ファシズム イタリア

## 1. 研究開始当初の背景

ファシズム期イタリアにおいて国民に広汎な余暇機会を提供した半官半民による全国的組織として、全国ドーボラヴォーロ事業団（Opera Nazionale Dopolavoro、以下O.N.D.）が知られるところである。1925年に設立されたこのO.N.D.は、観劇やスポーツの機会を提供するなど、建築と無関係な活動を行っていたように見受けられるが、余暇活動を実施するための施設整備をイタリア全土にわたって行うとともに、O.N.D.の設立が

労働時間外の労働者の自由時間に積極的に関与することによって生産性の向上につながようという発想にもとづいていたことから、労働者の日々の生活空間である住宅の問題に関心をもっていた。これらO.N.D.の建築分野での活動は本国イタリアにおいても明らかにされておらず、ファシズムとその時代の建築についてより理解を深める上で重要な研究対象であるといえる。

## 2. 研究の目的

このO.N.D.による建築活動について、網羅

的な把握を目指すことを大きな目標としながら、この研究課題では O.N.D.の住宅関連施策の全容と O.N.D.の主要な余暇施設の建築的特徴を明らかにし、さらにこれと国民住宅公団 (Istituto Case Popolari、以下 ICP) による住宅整備の状況について総合的な分析を行うことで、ファシズム期のイタリアにおける一般の人々の周囲にあった住空間と近隣の都市環境を一体的に捉えることを目的とした。

### 3. 研究の方法

- ① O.N.D.による出版物や当時の建築誌・美術誌などを資料として、O.N.D.の住宅関連施策の全貌を明らかにした。
- ② イタリア全土に設置されたと推測される O.N.D.関連の施設は、いまだ網羅的には把握されていないが、O.N.D.による出版物や当時の写真絵葉書等から、その外観写真とそれが存在した都市名を確認することができる。そこでこれらを資料として各地の O.N.D.関連施設についての情報を収集し、これをもとにインターネット上での仮想踏査を行い、各都市内におけるその所在地を特定、現存の可能性が高いものを現地調査の対象候補として整理した。この成果を受けて現地調査を行い、その現況および立地条件を確認した。さらにその建築について各地の公文書館・図書館において未公刊資料を中心とした資料収集を行った。
- ③ ICPによる公団住宅についても同様であり、この現地調査時に各種資料の収集を行った。さらに①の成果との突き合わせを行った。
- ④ 以上の資料をもとに、総合的な分析を行った。

### 4. 研究成果

#### ① O.N.D.による住宅関連施策

O.N.D.は 1927 年から 1929 年にかけて、低所得労働者の住宅に適した安価な家具の開発とその量産促進を狙いとしたコンクールを全国規模で開催した。その家具の意匠においては「イタリア性 *italianità*」、「好感 *simpatia*」、「簡素さ *semplicità*」を持つことが目指された。このうちとりわけて注目されるのが「好感」と「簡素さ」の均衡であり、過度の「簡素さ」は「好感」を失うものとして評価された。すなわち、先鋭的なモダニズムのデザインは拒否され、穏健で理解しやすいものが望まれており、O.N.D.はこれを「公共の趣味」という標語であらわした。

この家具コンクールに続き、O.N.D.は 1930 年の第 4 回モンツァ・トリエンナーレと 1933 年の第 5 回ミラノ・トリエンナーレにおいて「ドーポラヴォリスタの住宅」と題したモデル住宅を展示した。両者はともに O.N.D.所属の女性建築家 L.ロヴァリーニ (Luisa

Lovarini, 1900-?) による設計で、その内部におかれた家具は O.N.D.が主催した家具コンクールで表彰を受けたメーカーを中心に制作された。ロヴァリーニは家具コンクールにおいても出品者の立場で参加していることから、この 2 つの住宅はコンクールの成果を受けて実現したものといえることができる。

#### ② 県ドーポラヴォーロ施設

ドーポラヴォーロ活動のために必要な事務所や余暇施設は、ファシスト党の地方支部「カーサ・デル・ファッショ」の一機能として従来理解されているが、これと独立した専用施設として設けられることもあった。このドーポラヴォーロ専用施設は総称として「カーサ・デル・ドーポラヴォーロ」と呼ばれた。O.N.D.という組織の長である特別コミッサーリオに A.スタラーチェ (Achille Starace, 1889-1945) が就任した 1930 年以降、O.N.D.は組織の中央集権化をすすめた。この強固となった組織運営にもとづいて県都に設置された「カーサ・デル・ドーポラヴォーロ」である県ドーポラヴォーロ (Dopolavoro provinciale) は、ローマの中央事務局からの指示を各市町村に伝えるハブの役割を果たし、配下の市町村ドーポラヴォーロ (Dopolavoro comunale) 以上の重要性をもった施設として考えることができる。

この県ドーポラヴォーロについて、1938 年に出版された O.N.D.の年報では、全県におけるその設置には財政的な困難があると述べられており、思い通りの整備とはならなかったようである。その一方、同年報中ではパルマ県ドーポラヴォーロとヴェルチェッリ県ドーポラヴォーロを「1937 年において最も贅沢で完全な支部」として紹介している。スタラーチェの指導によって、O.N.D.はその活動の中心を余暇そのものの提供、すなわち気晴らしの提供へとシフトさせており、多数の余暇機能を有していたこれらの事例はとりわけて重要なものと考えられる。

#### ②-1 パルマ県ドーポラヴォーロ

インターネットによる仮想的踏査を通じて所在地を確認後、現地調査を行いこの建築の現存を確認した。現在は劇場として使用される同建築は、1902 年に公衆浴場として建設されたものを始まりとし、1935 年に O.N.D.施設として改修・開館した。このときにかつてのリバティ・スタイルの装飾を取り除き、モダニズムのスタイルへと内外の意匠を変更しており、1938 年の O.N.D.年報ではこのファサードについて「注目に値する建築的重要性」をもつと伝えていた。現在のファサードは 2002 年の改修後のものであり、前面道路に向けて大型の装飾的構造物が取り付けられている。

②-2 ヴェルチェッリ県ドーポラヴォーロ  
同建築はヴェルチェッリ市に現存し、技師 F.フランチェーゼ (Francesco Francese, 1902-?) の設計により 1936 年に竣工した、新築による O.N.D.施設である。この建築は他の O.N.D.施設よりも大規模なもので、パルマ県ドーポラヴォーロ以上の余暇活動が行えるものとなっていた。現在建築本体は市の管理下におかれてはいるものの使用されていない。しかし、施設の一部であるプールが市民プールとして夏期に稼働している。ヴェルチェッリ県はファシズム体制下の 1927 年にノヴァーラ県から分離して発足した県であり、同建築はその周辺地域も含めた開発の一環として整備された可能性が指摘される。

### ③住宅問題における ICP と O.N.D. の活動

ICP は自由主義時代の 1903 年に設立された住宅整備を目的とする公団である。この ICP への管理がファシズム体制下の 1920 年代半ばに公共事業省によって強化されると、各都市の ICP は中間層に対する持ち家普及の促進と、低所得者の住宅問題の解決に乗り出した。また、1924 年には国立国家公務員住宅公団 (Istituto Nazionale delle Case per gli Impiegati dello Stato、以下 INCIS) が設立されており、ファシズム体制がさまざまな階級への住宅供給に取り組みはじめたのは 20 年代半ばごろからと考えてよい。しかしながら、低所得者向け住宅にかんしては、過密化の著しいミラノのような大都市などでしか実現しなかった。そのミラノにおいては、都心にほど近い地域には中間層向けの住宅が整備され、都市の外縁部には最も貧困な下層労働者を対象に「超庶民 *ultrapopolare*」住宅という住宅が建設される状況が生まれた。

これは 1928 年 11 月からムッソリーニが展開した都市の集中化に反対するキャンペーンと連動しており、1928 年 12 月には失業労働者を出身地に強制送還する権限を県知事に与え、1931 年 4 月には無許可での県外転居が禁止された。以上のように、労働者の住宅問題とは国家的な規模で把握されながらも放置され、実現したとしても良質とは言えないものが供給されることとなった。

□で述べた O.N.D.によるモデル住宅もこれと呼応しており、1933 年の住宅は 1930 年のそれよりも小型化され、内部の家具もより簡易なものとなっていた。さらに 1933 年には、労働者住宅の問題にはプロパガンダという手段でしか関わらないと O.N.D.自身が明言するにいたり、O.N.D.が労働者住宅に積極的に関与した時期は 1927 年から 1933 年のわずかな期間でしかなかった。

④ICP および INCIS の住宅と O.N.D.施設の関連性

ミラノのような住宅需要が深刻であった大都市において、ICP による低所得労働者向けの住宅はある程度実現された。この一方、大都市であるがゆえにすでに十分な余暇機会が存在していたため、規模の大きな専用施設は O.N.D.によって整備されなかった。このため、ICP や INCIS の住宅と O.N.D.施設の関連性を検討する上では、余暇機会が相対的に乏しい中規模都市、具体的には各県の県都が注目される。それら都市における ICP 住宅にかんする情報収集には一定の困難があり、今後の課題となるが、その比較対象としてファシズム期の計画都市であるリットリア (現ラティーナ) について資料収集を行い、概略的な把握を行った。リットリアにおいては、INCIS の住宅が他の公共建築とともに都心に建設されているが、ICP の住宅は都市の拡張計画とともにわずかながら都心から離れた地区に整備されていた。これはミラノと同様の状況であるが、単なるスプロール化としてとらえるだけでなく社会的階層による居住区の固定としても考えることが可能である。他の都市においても同様の傾向が存在するかという点は、今後の研究における分析視点のひとつとして有効なものと思われる。

### ⑤今後の課題

本研究では、O.N.D.の建築関連での活動のうち住宅関連の活動について網羅的に明らかにすることができた。O.N.D.の余暇施設については事例収集の継続が必要となるが、研究成果④に述べたように県都レベルの中規模都市のものがとりわけて重要であると考えられ、これを中心的な対象として今後も研究を継続・推進していく。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

① 奥田耕一郎、O.N.D.主催「国民住宅のための経済的家具・室内装飾全国コンクール」を通じたイタリア製家具の近代化について。ドーポラヴォーロの建築における近代性の研究 その 2、日本建築学会計画系論文集、査読有、第 76 巻、第 669 号、2011、pp.2233-2239

[学会発表] (計 2 件)

① 奥田耕一郎、リットリアの O.N.D.施設とキエーティ県ドーポラヴォーロについて、日本建築学会大会 (北海道)、2013.9.1、北海道大学 (発表確定)

② 奥田耕一郎、パルマとヴェルチェッリの  
県ドーボラヴォーロについて、日本建築学会  
大会（東海）、2012.9.12、名古屋大学

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

奥田 耕一郎（OKUDA KOICHIRO）

早稲田大学・理工学術院・次席研究員（研  
究院講師）

研究者番号：50450103